



TITLE:

学生の声

AUTHOR(S):

CITATION:

学生の声. Cue 2004, 13: 56-56

ISSUE DATE:

2004-06

URL:

<https://doi.org/10.14989/57869>

RIGHT:

学生の声

「仕事と学業の両立」

情報学研究科 通信情報システム専攻 高橋研究室 博士後期課程1年 杉 山 敬 三

2003年10月より、㈱KDDI研究所から社会人ドクターとして博士後期課程に進むこととなりました。自分が大学生の頃を振り返るとドクターに進むとは夢にも思っていませんでしたが、当社はYRP（横須賀リサーチパーク）にもオフィスがあり、京都大学はYRPで講義を受講できる環境があることから、産学連携も兼ねて高橋研究室にお世話になることになりました。

私は国際電信電話㈱（現在のKDDI㈱）に入社と同時に研究所に配属となり、それ以来約16年間研究所に在籍しています。最初の10年程度は通信プロトコルやネットワーク管理の研究などに携わり、ここ数年は無線LANやITS（高度道路交通システム）など無線系の研究に取り組んでいます。企業の研究所であり、如何に会社に貢献できるかを念頭に置いて研究を進める必要がありますが、視野を広げ独善的な研究にならないためにも、学会活動や産学連携は重要です。

ただ、社会人ドクターに進むなら、時間的な余裕があった若い時の方が良かったかと思うこともあります。研究計画の策定や対外的な折衝、部下の指導等に追われながら、サイドワーク的にドクターの研究を進めています。学生の頃は今思えば有り余る時間がありましたが、時間の貴重さは忙しくならないとわからないものです。しかし、自分の性格からして、追い込まれないと進まない部分もあるので、今がその時なのかもしれません。

今回、遠隔講義による授業や研究室の学生との交流を通じて、久しぶりに学生気分を味わい、新たな意気込みで仕事に取り組むことができました。知的好奇心も刺激され、電子メールで流れてくる講演等の案内を見て、場所が近ければ是非参加させていただきたいと思うことも多々あります。今後も時間を大切にしながら、仕事と学業を両立させていきたいと考えています。

「社会人博士課程への進学について」

エネルギー科学研究科 エネルギー社会・環境科学専攻 吉川研究室 博士後期課程2年 北 村 雅 司

’93年に工学研究科電気工学第Ⅱ専攻 吉川研究室（現在は、エネルギー社会・環境科学専攻）を卒業して三菱電機㈱に就職し、’03年4月からは社会人の博士課程の学生として再度お世話になっています。修士論文では、ヒューマンマシンインタフェースの人間との適合性評価への心理生理学手法の適用に関する基礎研究を行いました。それなりの成果もあり、研究がおもしろくなってきた時期でもあったため、M2の時には、就職か博士後期課程への進学か非常に悩みましたが、ヒューマンマシンインタフェースの分野では、研究開発の成果を実際の製品に適用するにはメーカーに就職したほうが良いと考えて就職を選択しました。

三菱電機では、幸いにも、原子力発電所の中央制御設備の開発に一貫してたずさわることが出来ました。三菱電機では国内PWRプラントの設計製作をしています。今後は計測制御設備を総合デジタル化して、中央制御盤も従来のようなハードウェアのスイッチによる操作ではなく計算機のディスプレイを用いた監視操作となります。人間が関与する中央制御設備においては、ハードウェア側だけでなく、人間側の信頼性も含めたトータルな信頼性向上をはかるための取り組みが重要で、そのための設計手法と評価方法の開発、新型中央制御盤の開発設計、および実機への適用を行ってきました。実設計における成果を適宜論文として発表してきましたが、修士課程以降一貫して進めることの出来たヒューマンマシンインタフェースの研究をまとめるべく社会人博士課程に進学しました。ただし、修士課程終了後にそのまま博士後期課程に進学するほうが、早く学位が取得できて専門分野の中で活躍できるという点では有利かもしれません。

現在は、会社での設計業務を行いながら、週末に論文の作成など多忙を極めていますが、研究室には他にも留学生のかたや企業の研究者のかたも来られており、切磋琢磨することにより今後の糧となればと思っています。